

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-165	小学校	国語科	書写	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	書写 306	新編 新しい 書写 三		

1. 編修の基本方針

自分の字を好きになる。その「かぎ」を探しに行こう。

文字を書くことは、易いようで難しい。どこをどうすれば整って、読む人に伝わる文字になるのか。だいたいのポイントを「書写のかぎ」と名付けています。

学びを積み重ねていくことで、子供たちの文字は変わります。読む人のことを思って丁寧に文字を書くために「書写のかぎ」を活用し、自分を伝える術を磨いてほしい。そして豊かに世界とつながってほしい。そう願って、私たちは、この教科書を編修しました。



1

シンプルに、明快に、書くことを学ぶ

— 「そうか!」と思えることをだいにしました。

児童が「何ができるようになるか」を知って、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が分かる構成としました。個々の学習事項を積み上げ、それを「生活に広げる」ことができるようになる。学習事項のポイントである「書写のかぎ」を従来よりも具体的に明確に示しました。

2

もっと書写の学びがつながる

— 「何のために? いま、何をやっているの?」に答えます。

児童が日常から課題を見つけ、教科書を手段として解決していく様子を導入で示しました。「主体的・対話的で深い学び」につながります。学年の学習事項も一覧しながら、単元の学びがつながる工夫も施しました。見通しを持って学ぶことができます。

3

みんなて、いつでも、書写を

— みんなそれぞれ、どこにいるときも学べます。

児童を誰一人取り残さない。その決意で、左利きの持ち方を右利きと同様に示すほか、特別支援教育の観点、色覚特性等、あらゆる側面をチェックしました。また、すべての基本単元の導入にデジタルコンテンツを用意し、授業を支援するとともに、どこにいても個別最適な学びが実現するようにしました。

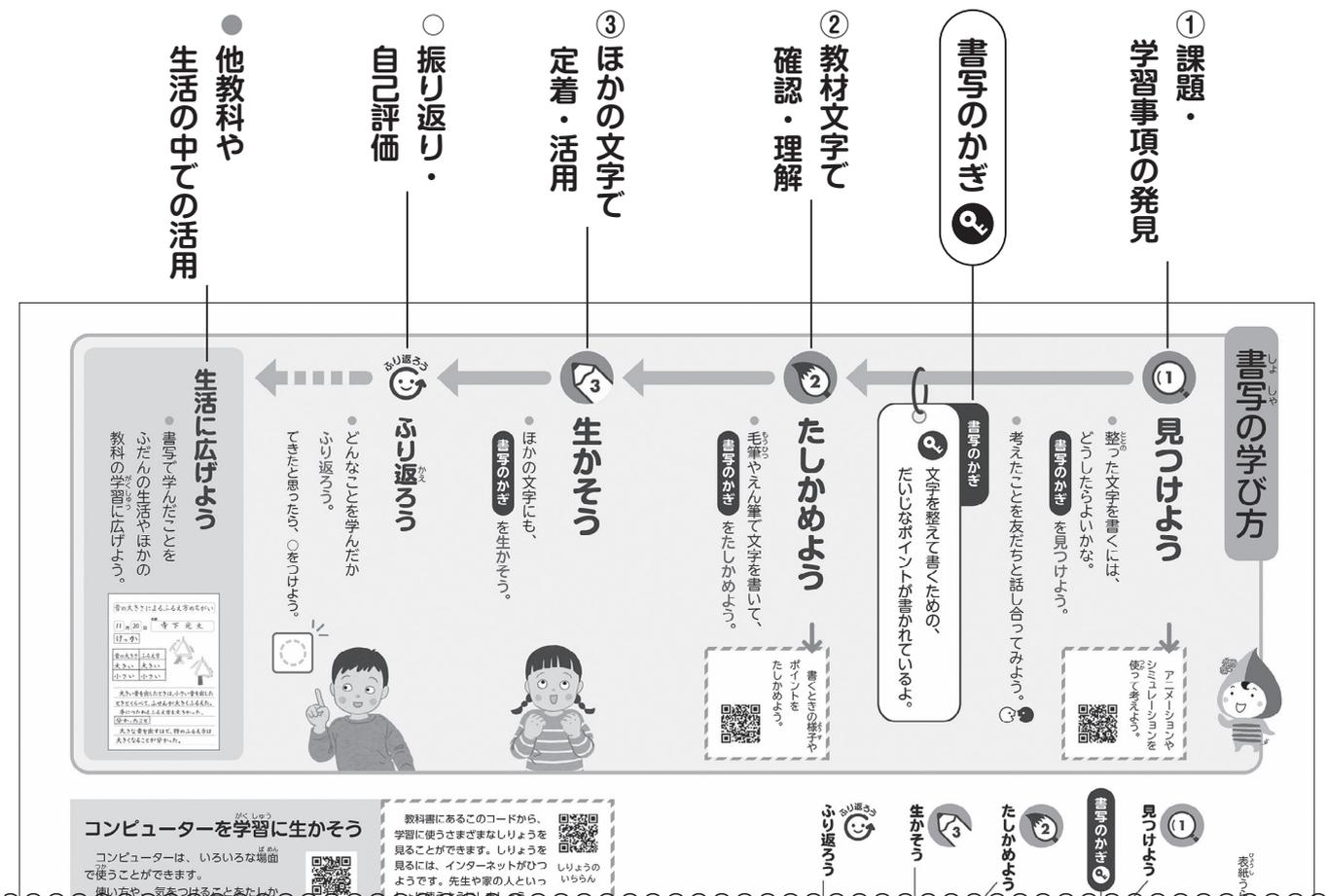
1

シンプルに、明快に、書くことを学ぶ

— 「そうか!」と思えることをだいにしました。

課題を見つけ、確認し、生かして納得する学習過程です。

基本単元では、学習事項のポイントである「書写のかぎ」を軸に課題解決型の学習過程を設定しました。



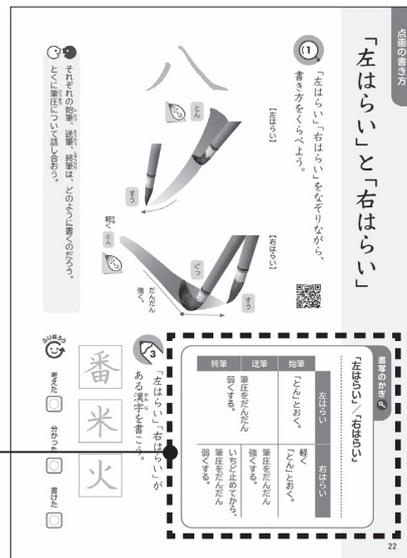
p.2-3

学習事項のポイント「書写のかぎ」は、発達段階に応じた示し方にしています。

系統的に整理した小学校の学習事項それぞれのポイントを、「書写のかぎ」として示しています。発達段階を考えて、端的で分かりやすい説明を指しました。

書写のかぎ

終筆	送筆	始筆	左はらい
弱くする。	筆圧をだんだん弱くする。	「ㄷ」をかく。	弱く
	筆圧をだんだん強くする。	「ㄷ」をかく。	右はらい
	いちど止めてから、筆圧をだんだん弱くする。		



p.22

3

みんなで、いつでも、書写を

— みんなそれぞれ、どこにいても学べます。

左利き対応、特別支援教育、色覚特性などに配慮しました。

左利きの用具の置き方を、右利きと同様に示しました。特別な支援を必要とする児童にも分かりやすい紙面とし、色覚特性にも配慮しています。



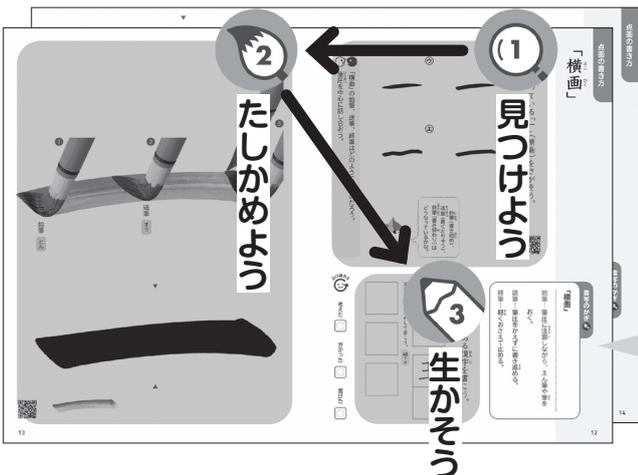
p.5 「毛筆を使って学習しよう」部分

教材文字と書き込み欄を上下に配置することで、左利きでも教材文字が隠れてしまわないようにしています。



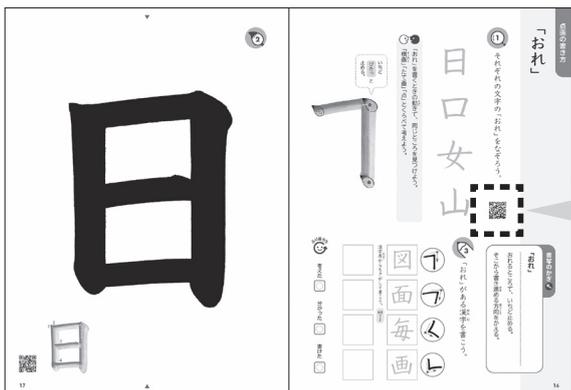
p.12

どのページでも、同じ学習過程は同じ場所に配置し、理解しやすい紙面構成としています。



すべての基本単元の導入に QR コンテンツを用意。GIGA スクール構想への対応が万全です。

すべての基本単元の「見つけよう」に、アニメーションを QR コンテンツで掲載。授業の導入にも、家庭学習にも使えます。



p.16-17

① それぞれの文字の「おれ」をなそう。

二次元コード (QR コンテンツ数)	アニメーション	10 か所 (10)
	動画	12 か所 (24)
	その他の動画等	5 か所 (5)

2. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所 (頁)
導入	おかしな書きぞめ／目次	児童の日常から課題を見つける導入によって、真理を求める態度を養えるよう配慮した。また、学習事項を一覧する工夫によって年間の見通しを持ち、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。(第一号、第二号)	表紙裏-1
	書写の学び方	書写の学び方を理解することで、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。(第二号)	2-3
しせい・持ち方	毛筆を使って学習しよう	毛筆を使った学習方法を学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培い、正しい姿勢によって健やかな身体を養えるよう配慮した。また、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。(第一号、第五号)	4-11
点画の書き方	「横画」	児童が主体的に課題を発見していく活動によって、真理を求める態度を養えるよう配慮した。(第一号)	12-13
	「たて画」と「点」		14-15
	「おれ」		16-17
文字と いっしょに	どうやって作るの 筆・和紙・すずり・すみ	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した。また、伝統的な用具・用材である筆・和紙・硯・墨の作り方を知ること、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。(第二号、第五号)	18
生活に 広げよう	原こう用紙に書こう	原稿用紙の使い方を学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付けられるよう配慮した。(第一号)	19
配列	文字の大きさと字間	児童が主体的に課題を発見していく活動によって、真理を求める態度を養えるよう配慮した。(第一号)	20-21
点画の 書き方	「左はらい」と「右はらい」		22-23
	「曲がり」と「反り」		24-25
生活に 広げよう	実験したことを 記録しよう	実験記録の書き方を学ぶことで、書写が生活のさまざまな書式に応用できることに気づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。また、実験記録を書くことで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。(第三号、第四号)	26-27
文字と いっしょに	名前を書こう (小筆)	小筆の使い方を学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付けられるよう配慮した。(第一号)	28
	書きぞめをしよう	書きぞめの習慣を学ぶことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。(第五号)	29-31
点画の 書き方	ひらがな	児童が主体的に課題を発見していく活動によって、真理を求める態度を養えるよう配慮した。(第一号)	32-33
書くときの 動き	筆順の決まり		34
字形	点画の長さ		35
文字と いっしょに	書いて味わおう 俳句	俳句を書いて味わうことで、豊かな情操と道徳心を培うとともに、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮した。(第一号、第五号)	36
学びを 生かそう	三年生のまとめ	知識をまとめ応用する活動によって、個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。(第二号)	37-39
	はがきてつたえよう	はがきの書き方を学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。(第一号、第三号)	40-41
しりょう	ひらがな・かたかな・ローマ字の表	ひらがな・かたかな・ローマ字を整えて書けるようになることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。(第三号)	42-43
	一～三年生で学習する「書写のかぎ」	第一学年から第三学年までの学びを振り返ることで、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。(第二号)	44-47
	一・二年生で学習した漢字	第一学年から第三学年までで学ぶ漢字とその筆順をまとめ参照できるようにすることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。(第三号)	48-50
	三年生で学習する漢字		50-52
文字と いっしょに	書きぞめをしよう	書きぞめの習慣を学ぶことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した。(第五号)	53-56
	筆作りにこめた思い	筆作りにこめた思いを知ること、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した。(第二号)	57

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- **通学時の持ち運び等の負担に配慮**して、教科書・端末・書写用具を並べて学習しても無理のないサイズにするとともに、十分な強度を持ちながら軽量の用紙を開発しました。同時に、用紙は鉛筆で書き込みもしやすく、判型を小さくしても**書き込み欄は充実**したままにしました。(第一号)
- **授業支援**を念頭に置き、学習過程を明確かつ丁寧に示すことによる無理のない指導の実現、QRコンテンツの利用による授業の効率化などに取り組みました。(第二号)
- **硬筆・毛筆を効果的に関連**させるため、硬筆での課題発見→毛筆での習熟→硬筆で別の文字への活用という展開を設定しました。また、コラム「なぜ毛筆を使うの」(p.11)などを設け、書写学習や毛筆学習の意義を児童が意識できるよう工夫しました。(第一号)

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-165	小学校	国語科	書写	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	書写 306	新編 新しい 書写 三		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 毛筆を使った学習を丁寧に — 「どうすればいいの?」に答えます

豊富な QR コンテンツで手順や動きがよく分かります。

毛筆を使った学習は楽しみだけれど、戸惑うことばかり。初めての道具をどう扱えばよいか、QR コンテンツでも丁寧に説明しています。また、狭くなりがちな机を有効に使えるように B5 変型サイズを採用しました。

準備とかたづけ、それぞれの流れを、分かりやすく示しています。

半紙と同じ縦横の比率です。
(128%に拡大すると半紙原寸大になります。)

p.4-5

用具のじゅんび

用具のかたづけ方

運筆動画

準備動画

2 硬筆から始まり硬筆に戻す

— 学びを生活の場に生かすために

必ず硬筆で課題発見をしています。

硬筆の中から課題を見出し、毛筆で学びを確かにし、その成果を硬筆で生かす学習過程を大切にしています。学びを毛筆で完結させず、硬筆に生かす力を育みます。



たしかめよう
毛筆で学びを確かにする。



見つけよう
硬筆の中から課題を見出す。

p.14-15

(1) 見つけよう

児童にありがちな「課題のある例」を出発点にすることで、学びを自分ごととして捉えられるよう工夫しました。

p.12 「横画」部分

p.14 「たて画」と「点」部分

教科書の特徴

教育基本法への対応	<ul style="list-style-type: none"> 書写学習を通して、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自律の精神を養えるよう編修しました。 文字文化単元「文字といっしょに」を通して、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮しました。
学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の書写に関する事項をもれなく指導し、ねらいを達成できるよう、単元を組織・配列しています。
単元の系統性	<ul style="list-style-type: none"> 書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら系統的に単元を配列し、螺旋的に学習できるよう工夫しています。 単元ごとに原則として一つの「書写のかぎ」を置き、単元名にも指導事項を端的に示すことで、学習のねらいを明確化・焦点化しています。 書写の学習要素を系統的に分類・整理してインデックスに示すことで、児童自身が系統性を意識した学習ができるよう工夫しています。
硬筆・毛筆の関連指導	<ul style="list-style-type: none"> 単元は、①硬筆で「書写のかぎ」（文字を整えて書くための知識・技能）を発見し課題を共有する→②毛筆で大きく書くことで確認する→③硬筆で別の文字を書くことで定着を図る→④振り返るという展開で、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成しています。 毛筆教材と硬筆教材との配分を考慮し適切な順で単元を配列することで、硬筆・毛筆を効果的に関連させた指導ができるようになっています。
2・3学期制や複式指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 単元の配列及び時間配当は、3学期制、2学期制のいずれにも対応できるよう配慮しています。 複式指導に配慮して、学年が異なっても、毛筆を使った学習が同時期になるように単元配列しました。用具の準備等の負担を軽減するように努めました。
教材の選定程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> 学年の配当時に照らして適切な単元数、分量で、硬筆と毛筆の学習ができるようにしています。 硬筆文字・毛筆文字ともに、児童の学びやすさを考慮した簡明な筆使いとしています。学習指導要領の学年別漢字配当表の字形に拠って、硬筆文字と毛筆文字の整合性を図っています。書風は健康的で明るく、濃度や筆圧にも配慮して執筆しています。 教材として、各単元の指導事項に適した字形を持つ文字であり、かつ、学年段階に応じた語彙を選んでいきます。 図解やイラスト、写真などの人物の人数や役割には、性別による極端な偏りがないよう配慮しています。 取り上げた児童作例などは、外国人児童などの日本語指導の必要な児童にも配慮しています。
国語科国語や他教科の学習、学校生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> 「生活に広げよう」において、原稿用紙や実験記録、はがきの書き方など、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力を育成するようにしています。 日常生活の中では横書きが多い現状に考慮し、他教科の学習や生活の中で使う例として、横書きの教材も取り入れています。(p.21、p.26) 国語や他教科の学習と連動している教材には、関連マークをつけて意識づけを図っています。(p.19、p.26 など) ローマ字表は、英語教科書で使われる幅の4線を採用し、英語教科書用に開発されたフォントに近い字形の手書き文字にして、児童の学習しやすさに考慮しています。(p.43) 当該学年の漢字を提出する際は読み仮名や筆順を示し、国語の学習時期による支障がないよう配慮しました。
特別な支援を要する児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。 文意を理解しやすいように、文節で改行しています。 学習に集中し、紙面の中のだいたいの情報に着目できるように、レイアウトや色使いを工夫しました。
カラーユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
学習者用デジタル教科書・拡大教科書	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に有効な機能が充実した学習者用デジタル教科書を発行予定です。 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現とし、表記や用語は統一した基準を設けています。 使用する漢字は、原則として当該学年以下とし、当該学年の漢字には振り仮名をつけています。
活字	<ul style="list-style-type: none"> 手書きの硬筆文字の字形や書き方に準拠し、国語・書写の学習に適した教科書体を独自に開発しました。 教科書体以外は、振り仮名などに読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。
判型	<ul style="list-style-type: none"> 書き込み欄は充実したままに、毛筆の道具・教科書・端末を並べて学習しても無理のないサイズにしました。 毛筆教材文字のページは、余白を含めて半紙の縦横比率に合わせてあるので、半紙での配列の参考になります。128%拡大すると半紙の原寸大になります。
印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆文字は、印刷の濃度や色味を調整して、より本物に近く、見やすいものになっています。 印刷は鮮明で正確です。 用紙は、鉛筆で書き込みがしやすく、十分な強度を持ちながら軽量なものを使用しています。通学時の持ち運び等の負担に配慮しています。 表紙は、見開きの状態を維持しやすい紙に耐久性を高める加工をし、特に堅牢な針金綴じで製本しています。 環境へ配慮し、再生紙や植物油インクを使用し、「グリーンプリンティング認定工場」で印刷・製造を行っています。
GIGA スクール構想への対応	<ul style="list-style-type: none"> 基本単元の導入に、QR コンテンツでアニメーションやシミュレーションを用意しています。 毛筆の運筆動画も QR コンテンツとして視聴できます。 情報教育の研究者や実践者に指導を受け、ICTを活用して、学びを効果的に高められるようにしています。
感染症予防	<ul style="list-style-type: none"> 教科書冒頭に、感染症の予防について注意喚起を行う「うつらない うつさない ために」を設けています。二次元コードから、基本的な感染症予防についてまとめたサイトを閲覧することができます。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所(頁)	配当 時数	指導 時期	3学 期制	2学 期制
		(ア) 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。					
導入	おかしな書きぞめ／目次				表紙裏-1			12	17
	書写の学び方				2-3	3	4		
しせい・持ち方	毛筆を使って学習しよう	○		○	4-11				
点画の書き方	「横画」	○		○	12-13	3	5		
	「たて画」と「点」	○		○	14-15	3	6		
	「おれ」	○		○	16-17	3	6/7		
文字と いっしょに	どうやって作るの 筆・和紙・すずり・すみ				18	(配当なし)	適宜		
生活に 広げよう	原こう用紙に書こう	○	○		19	1	9		
配列	文字の大きさと字間		○		20-21	1	9		
点画の 書き方	「左はらい」と 「右はらい」	○		○	22-23	3	9/10		
	「曲がり」と「反り」	○		○	24-25	3	10/11		
生活に 広げよう	実験したことを 記録しよう	○	○		26-27	2	11		
文字と いっしょに	名前を書こう(小筆)	○	○	○	28	4	11/12		
	書きぞめをしよう	○	○	○	29-31, 53-56				
点画の 書き方	ひらがな	○	○	○	32-33	2	1		
書くときの 動き	筆順の決まり	○			34	1	1		
字形	点画の長さ	○			35	1	2		
文字と いっしょに	書いて味わおう 俳句				36	(配当なし)	適宜		
学びを 生かそう	三年生のまとめ	○	○	○	37-39	3	2		
	はがきてつたえよう	○	○		40-41	2	3		
しりょう	ひらがな・かたかな・ ローマ字の表				42-43	(配当なし)	適宜		
	一～三年生で学習する 「書写のかぎ」				44-47	(配当なし)	適宜		
	一・二年生で学習した 漢字				48-49	(配当なし)	適宜		
	三年生で学習する漢字				50-52	(配当なし)	適宜		
文字と いっしょに	筆作りにこめた思い				57	(配当なし)	適宜		
						35			